

### Ⅲ 第2学年の結果の考察

この問題は、該当学年において学習した結果の実態を診断的にとらえ、今後の学習指導に役立てることを目的として用いるものである。したがって問題の構成は前述したように、つぎの基本的立場に立って、この趣旨が達せられるように努力した。

- (1) 指導要領に示されている第2学年の内容についての基本的能力をとらえるようにする。
- (2) 理解の深さ、およびつまづきの箇所を診断できるようにする。
- (3) 子どもの算数科の学力について、概観的に且つ、教科内における学力の差異をも診断的にとらえるようにする。

以上のような問題作成にあたっての基本的な考えをふまえ、当学年の算数科の学力をとらえるように、いくつかの領域・分野を設定し、それぞ

れの領域・分野のねらいにあった問題を網羅的に漏れのないように作成し、それぞれの領域・分野の能力および、当学年の算数科の学力を、ペーパーテストの限界内で、診断的にとらえるようにした。

領域・分野は、1学年と同様、学習指導要領に示された領域とし、数と計算に関する内容が大半をしめており、しかも、数概念や計算の理解がその基礎となっているので、この領域をつぎのように2つに分けた。

- 数と計算の意味の理解      数の概念の理解、  
加減を適用して問題を解く能力
- 計 算                      計算について理解と技能
- 量と測定                  量の概念と測定の意味の理解
- 図 形                      図形の概念の理解
- 数量関係                  数量の関係についての理解

#### 1 問題のねらいと正答率

(I) (40分)

領 域	問 題 の ね ら い	問 題 番 号	正 答 率		
			小 問	大 問	領 域
I  数 と 計 算 の 意 味	1. 分類して数える。	1	(1)	55.6	65.8
			(2)	76.0	
	2. ものごとを整理して表わす。	2	(1)	49.4	50.1
			(2)	50.7	
	3. 4位数までの数を表わす。	3	(1)	75.8	58.8
			(2)	48.7	
		4	(1)	39.3	
			(2)	61.5	
	5	68.8			
	4. 数の大小、順序を表わす。	6		93.0	92.6
7			92.2		